

インテリア雑誌「コンフォルト 8月号」掲載記事紹介

拝啓

貴社ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は「BIDOOR(ビドール)」製品に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度、[インテリア雑誌「コンフォルト」](#) 8月号 No.169 の「MONOMIRU」にて、弊社新商品の「染竹 (SENDAKE)」が紹介されました事をご報告いたします。

敬具

巻末のハガキを使って資料請求ができます。ページ下にある資料請求番号をご指定ください。

CONFORT MONOMIRU

室内扉に「和」の雰囲気をもたらす
染竹 (SENDAKE)
[ドア部品]



2



3



4



1

●高級家具などに使用されるウォールナット色。手触りもなめらかで上質な空間を演出する。●さまざまな室内ドアにマッチする6種類のナチュラルカラーで展開。複数の染料を組み合わせることで繊妙な中間色を表現する。●形状のラインナップは、正角引手・丸引手・長角引手・スリムアーチ取手の4種類。●手がかり部の内側は、「かぶせ接ぎ」により四隅が垂直なラインに。角ノミで彫り込んだような美しさをつくりあげた。

室 内扉の引手は、形状こそ小さいとはいえず、ドアやインテリアの印象を大きく左右する重要な部品だ。ところがその素材に目を向けると、金属製のものが多く天然木の引手があり見られないことがわかる。これは天然木の色柄が採取時期や生育環境ごとに異なり、品質を一定に保つことが難しいためだ。木合板を使った引手製品もあるが、木調が不自然でカラーバリエーションに乏しいという問題点があった。

色柄の品質と美しい質感を両立させるために、株式会社ビドールが一つの答えを出した。それが、竹材と染料を組み合わせた新しい扉部品シリーズ「染竹(センダケ)」だ。竹材は自然な木目が備わっているだけでなく、染料が馴染みやすくカラーが安定する性質を持っている。そこで、塗装ではなく複数の染料を組み合わせ、染めこむことで、素材の風合いを活かした木目が実現した。この「染竹」は、ビドールがインテリアにおける和のあり方を小さな装飾品から構築する「ワトモス」活動の一環として開発。和の雰囲気演出するために採用したのが「かぶせ接ぎ」で、天地から部品をかぶせるようにして本体に装着するため、まるで横引手のようなシルエットになるのだ。また、1対1という縦横比からなる形状も、和を意識させる要素だと言えるだろう。

毎日使用するからこそ、天然木の手触りにこだわった染竹。洋室に「和」を「灯す」存在として、その重要性はこれからも増していくに違いない。

